



「堀尾幸男 舞台美術展 亂反射」会場風景 撮影:原田直樹



三谷文楽「其礼成心中」舞台模型



「ロミオとジュリエット／リチャード三世」舞台模型

Yukio Horio Scenography Diffused Reflection

札幌文化芸術交流センター SCARTSの開館記念展として、日本を代表する舞台美術家・堀尾幸男のこれまでの作品を紹介する展覧会を開催しました。堀尾はこれまで、野田秀樹、中島みゆき、三谷幸喜など、第一線で活動する脚本家・演出家と協働し、作品を創造してきました。この展覧会では、堀尾が手掛けた600を超える作品の中から厳選した28作品を取り上げ、舞台美術模型、図面、創作エピソードなどと共に紹介し、さまざまな方向から「舞台芸術」の魅力に迫りました。また、会場造作には実際に舞台で使用されたミラーや背景幕を使用し、ギミックが組み込まれた模型を展示するなどのさまざまな仕掛けをつくり、劇場とアートセンターを併せ持つ、新しい文化拠点としての札幌市民交流プラザの開館を印象づけました。

空想を目に見えるものにする仕事

堀尾幸男

舞台美術家(セノグラファー)。1946年生まれ。広島県出身。1969年、ドイツに留学し、ヴィリー・シュミット教授に師事。1981年より小道具などの造形美術の制作を手掛ける。1983年オペラ「ルチア」「マリア・ストゥアルダ」の美術を担当。以来、さまざまな舞台美術デザインに携わる。中島みゆき「夜会」、野田秀樹「THE BEE」「足跡姫」「桜の森の満開の下」、蜷川幸雄「リア王」、いのうえひでのり「臘の森に棲む鬼」「髑髏城の七人」、三谷幸喜「コンフィダント・絆」、新国立劇場「蝶々夫人」「マクベス」ほか。第24回読売演劇大賞グランプリ受賞。武蔵野美術大学教授として若き才能の育成にも尽力している。



まるで舞台空間のような展覧会会場。会場構成は堀尾幸男によるもの 撮影:原田直樹

[関連イベント]



トークイベントの様子。舞台美術制作の裏話などにも触れた

トークイベント

日時 2018年10月16日(火) 19:00～20:30

会場 SCARTSスタジオ

入場料 無料

出演 堀尾幸男(舞台美術家)、愛海夏子(シークレット歌劇団0931主宰)

堀尾氏がこれまで舞台美術を手掛けてきた作品を一つひとつ紹介しながら、その創作秘話やエピソードを掘り下げるトーク。普段なかなか知る機会のない、舞台美術家の目から見た演出家や演劇について知る機会となりました。



「かみのげきじょう」さまざまな紙からつくりたいものを考える 撮影:原田直樹

紙を折ったりクシャクシャにしたり、形をつくりていく 撮影:原田直樹



「一本の線から～メタモルフォーゼってなに?」墨と筆を使って点と線を描く

描いた絵に閉まれた空間でパフォーマンスを創作

日本舞台美術家協会ワークショップ①

「かみのげきじょう」

日時 2018年10月7日(日)～8日(月・祝) 11:00～16:00

会場 SCARTSスタジオ

講師 長峰麻貴(舞台美術家)、仲村祐妃子(日本舞台美術家協会会員)、大野洋平(現代美術家)

堀尾氏が舞台セットなどをつくり上げる際に活用している素材「紙」をテーマとした未就学児・小学生向けのワークショップ。さまざまな種類の紙を使って帽子や絵本を作成したほか、室内の空間に生き物や風景を自由に描いてもらう「かみの空間あそび」を実施しました。

日本舞台美術家協会ワークショップ②

「一本の線から～メタモルフォーゼってなに?」

日時 2018年10月27日(土)～28日(日) 10:30～16:00

会場 SCARTSスタジオ

講師 堀尾幸男、長峰麻貴、秋山光洋(いずれも舞台美術家)、白神ももこ(ダンサー／演出家)

演劇や美術に興味を持つ市内の中学生・高校生・大学生を対象とした、舞台美術や演劇的パフォーマンスに関するワークショップ。点と線で構成された絵を作成し、その作品から得たインスピレーションを身体で表現する小演劇パフォーマンスを創作しました。